

|         |  |
|---------|--|
| 氏名      | 川 崎 智 子  |
| 学位の種類   | 医 学 博 士  |
| 学位授与番号  | 乙 第 1183 号   |
| 学位授与の日付 | 昭和56年3月31日   |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第5条第2項該当)   |
| 学位論文題目  | Beta - Adrenergic Blockade ( Propranolol )投与<br>による心電図, ベクトル心電図の変化に関する研究 |
| 論文審査委員  | 教授 木村郁郎 教授 大藤 眞 教授 中山 沃  |

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

心電図学上, 心筋虚血による変化との鑑別が困難である非特異的T波変化の成因を明らかにし, また交感神経系の関与を明らかにする目的で, 交感神経 $\beta$ 受容体遮断剤の Propranolol を投与し, 心電図, ベクトル心電図の変化を検討した。対象は健常群, 若年性T波群, 神経循環無力症群(N. C. A.), 虚血性心疾患群などの合計179名の成人男女である。

心電図のRR, PQ, QT間隔の延長, QTcの減少は各群にはほぼ共通してみられた。

健常群のT環は左前下方に細長く大きくなり, T波もII, III, aVf, V<sub>2</sub>-。誘導で増高したが, 虚血性心疾患群ではこのような変化はみられなかった。

NCA群, 若年性T波群は, 健常群と同様のT波, T環の変化を生じ, これらの群にみられる小さく, あるいは後方にあるT環, 低いT波, 右側胸部誘導にみられる陰性T波などは, 非特異的なT波変化であると考えられた。

Propranolol 投与によるT波の変化の機序としては, 心臓各所の活動電位の持続時間あるいは形の変化が関与していると考えられた。

#### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はBeta-Adrenergic Blockade投与による心電図, ベクトル心電図の変化について臨床的に研究したものであるが, 従来十分確立されていなかった心電図上の変化とくにそのT波の変化について重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。